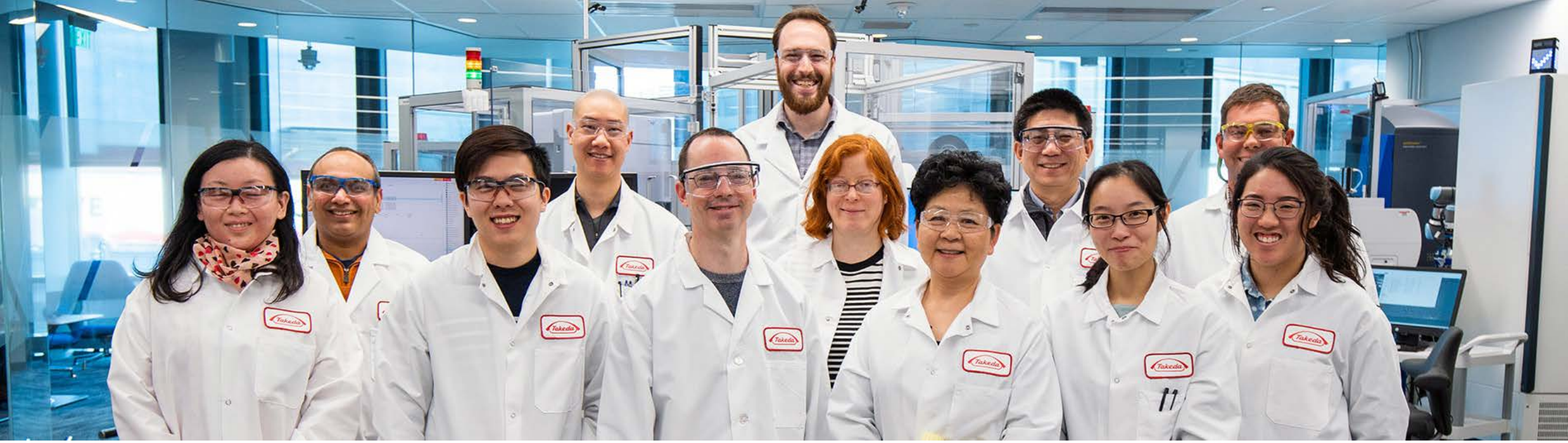


CORPORATE OVERVIEW 2020

武田薬品工業株式会社 会社概要 2020

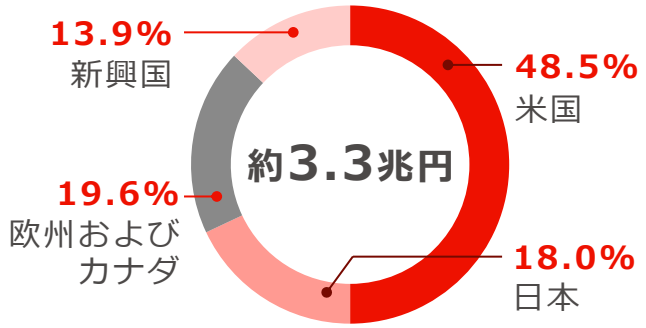
Better Health, Brighter Future

グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニー

36
製造拠点

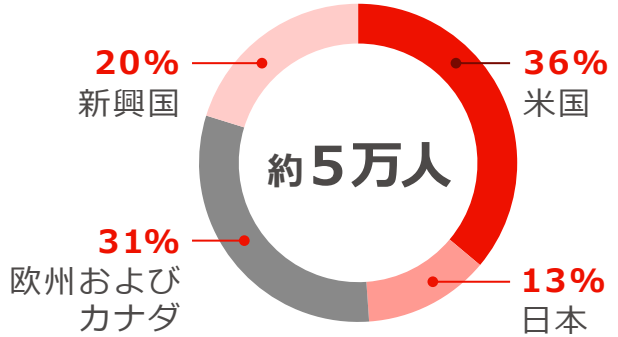
3
研究所

売上収益



2020年3月末時点

従業員



2019年12月末時点

Top Employers®認定
30+ の国・地域
2020年2月末時点

グローバル拠点
約80 の国・地域
2020年2月末時点

研究開発費
年間約4,500億円

HOW CAN WE DO **MORE** FOR **OUR PATIENTS?**

患者さんのために
これまで以上に何ができるか？

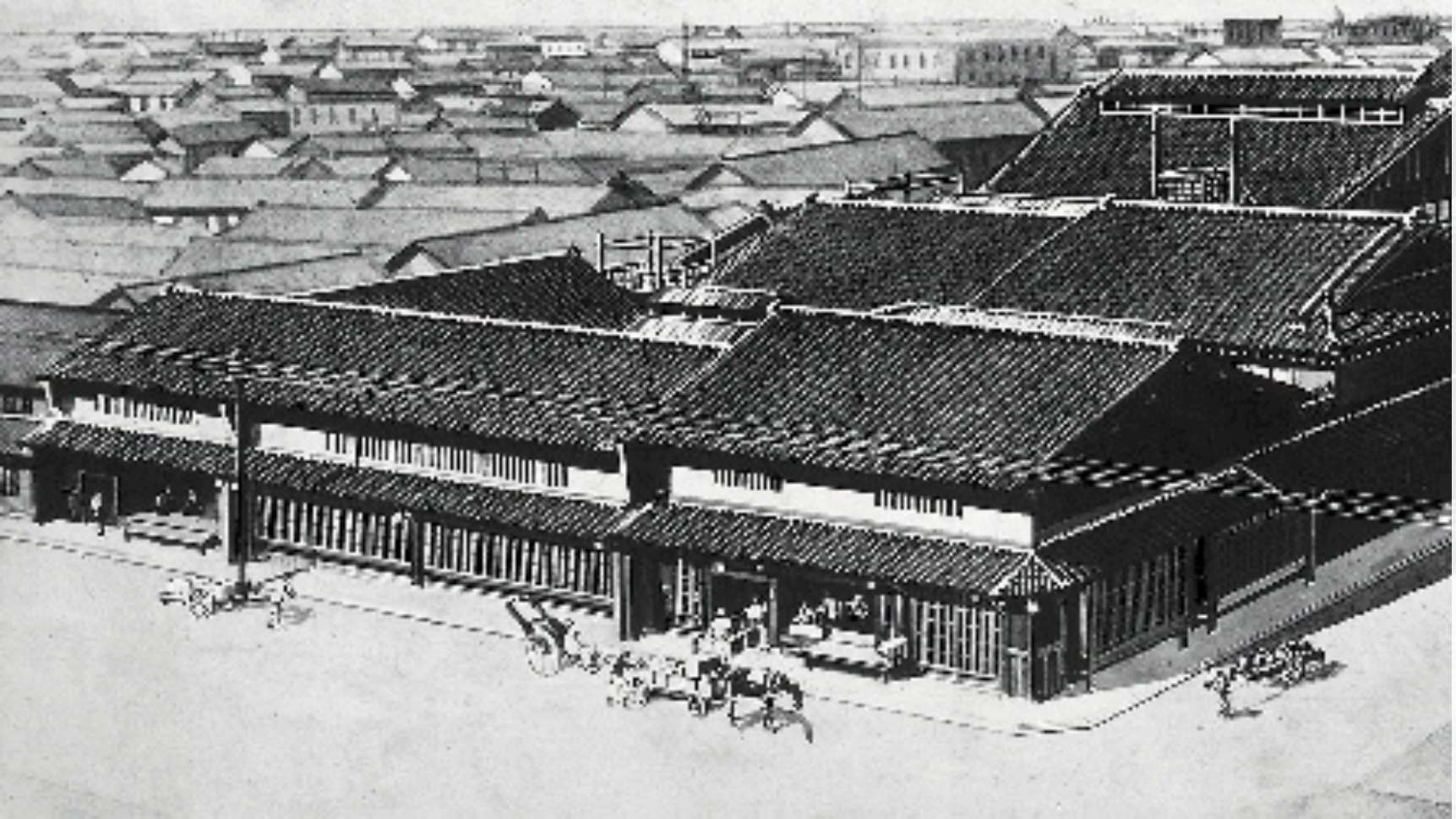
01
HERITAGE
伝統

02
DIVERSITY
多様性

03
INNOVATION
革新性

04
SUSTAINABILITY
サステナビリティ

タケダの創業の地である大阪・道修町は、江戸時代には日本の薬種取引の中心地となっていました。現在も数々の製薬企業が本社や拠点を置く「くすりのまち」として知られています



01

HERITAGE
伝統

患者さんを我が子のように思い、
誠実に仕事に取り組んでいくこと

経営の基本精神

1781年の創業時から変わらない「誠実」を旨とする価値観に基づいて、患者さんを中心にした事業を行ってきました。
現在はタケダイズムとして受け継がれ、4つの優先順位とともに、ミッションとビジョンの実現に向けた、私たちのあらゆる活動の羅針盤となっています。

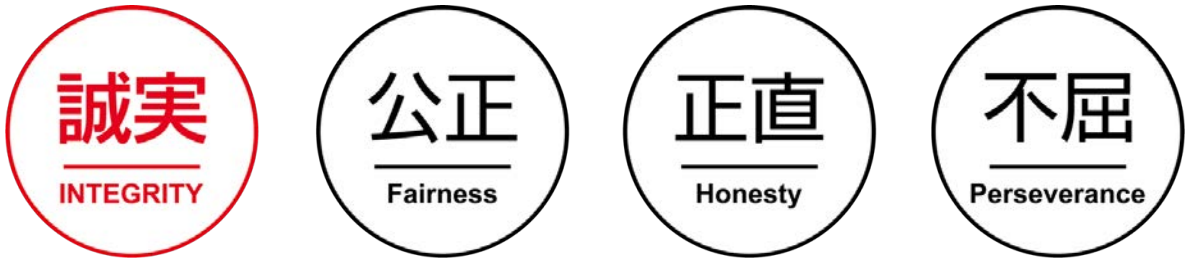
ミッション

優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する

ビジョン

タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

バリュー
タケダイズム



私たちの優先順位

私たちは、次の重要事項について、その優先順位に従って考え、行動や判断の基準とします

1. 常に患者さんを中心に考えます
2. 社会との信頼関係を築きます
3. レピュテーションを向上させます
4. 事業を発展させます

タケダの歴史 1781年～1979年

FOR BUSINESS

1781
COMPANY FOUNDED
初代近江屋長兵衛が大阪で薬種仲買商を始め、高品質の薬を提供

1871
INTERNATIONAL TRADE
洋薬（西洋医薬品）の輸入を開始

1895
PRODUCTION
自社工場で製薬事業を開始

1914
PROPRIETARY RESEARCH
研究部を設立
自社で研究活動を開始

1915
OSAKA FACTORY
大阪工場の前身である武田製薬所を開設

1940
“NORI” PRINCIPLES
タケダイズムの礎となる「規（のり）」を制定

1943
COMPANY NAME
社名を現在の武田薬品工業に変更

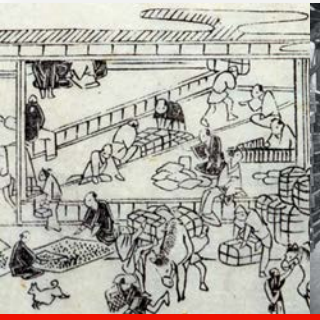
1946
HIKARI FACTORY
山口県 光工場を開設

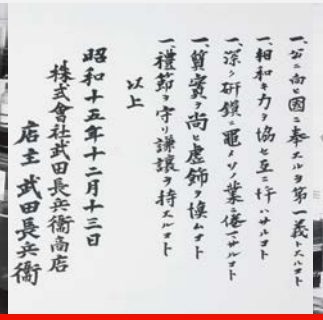
1949
INITIAL PUBLIC OFFERING
株式を上場
株式公開企業に

1950s
PANVITAN® & ALINAMIN®
日本初の総合ビタミン剤およびビタミンB1誘導体製剤を発売

1951
INTERNATIONAL BUSINESS
北中米、アジアを皮切りに海外市場に本格参入

1961
COMPANY LOGO
輸出向け商標として「抱き山タケダ」を使用開始




昭和十五年十二月十三日
株式會社武田長兵衛商店
店主 武田長兵衛
以上

FOR SOCIETY

1933
TAKEDA HERBAL GARDEN
「京都薬用植物園」を開設し世界各地の薬用・有用植物を収集・活用

1960
SHOSHISHA FOUNDATION
優秀な学生を支援し将来の社会に貢献できるよう、育英事業を目的とする「尚志社」を 設立

1963
TAKEDA SCIENCE FOUNDATION
有望な研究および科学技術の助成振興のため「武田科学振興財団」を設立

タケダの歴史 1980年～現在

FOR BUSINESS

1980s & 90s
EXPANSION OF INTERNATIONAL BUSINESS
4つの国際戦略製品
「リュープロレリン」、
「ランソプラゾール」、
「カンデサルタン」、
「ピオグリタゾン」により
グローバル事業の拡大が加速

2008
MILLENNIUM PHARMACEUTICALS
米国のバイオベンチャーで
あるミレニアム社を買収し、
がん領域を強化

2011
NYCOMED AQUISITION
新興国に強い販路を持つ
ナイコメッド社を統合し、
事業基盤を70カ国以上に拡大

2014
VEDOLIZUMAB
潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬
「ベドリズマブ」を米国および
欧州で発売

2015
IXAZOMIB
多発性骨髄腫治療薬
「イキサゾミブ」米国で発売

2018
NEW YORK STOCK EXCHANGE LISTING
ニューヨーク株式市場への上場により、
ニューヨーク証券取引所と東京証券取引所の
双方に上場されている唯一の医薬品企業に

SHONAN HEALTH INNOVATION PARK
湘南にヘルスイノベーションを加速する
iPark をグランドオープン

TAKEDA GLOBAL HEADQUARTERS
武田グローバル本社をグランドオープン、
多様性に富む従業員がオープンにつながり、
ともにイノベーションに取り組む拠点へ

2019
SHIRE ACQUISITION
シャイアー社の買収により、
事業拠点は約80の国・地域に
拡大し、グローバルな研究
開発型バイオ医薬品の
リーディングカンパニーへ

FOR SOCIETY

2009
UNITED NATIONS GLOBAL COMPACT
「国連グローバル・
コンパクト」に参加

2010
TAKEDA INITIATIVE
アフリカの保健医療人材の育
成を支援する
「タケダ・イニシアティブ」
を開始

2016
ACCESS TO MEDICINES
医薬品アクセスに関する取り組みを
開発国を中心に開始

GLOBAL CSR PROGRAM
疾病予防に重点を置いた支援活動
「グローバルCSRプログラム」を開始

2019
TAKEDA INITIATIVE 2
母子を対象にHIV・結核・マラリアの
対策を支援する
「タケダ・イニシアティブ２」 を開始

02

DIVERSITY
多様性

従業員一人ひとりの活躍がタケダの成功への原動力です。多様な意見が尊重され、従業員がいきいきと働く職場から、患者さんや地域社会のニーズに応えるイノベーションが生まれます。

多様な視点から生まれる
創造的なソリューション

タケダ・エグゼクティブ・チーム

国籍・年齢・性別において多様性に富み、それぞれの領域において豊富な経験を持つタケダ・エグゼクティブ・チームが、
迅速で透明性の高い意思決定を行っています。

日本

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル
オフィサー

岩﨑 真人
ジャパンファーマ
ビジネスユニット
プレジデント

大薮 貴子
チーフ グローバル
コーポレート アフェアーズ
オフィサー

中川 仁敬
グローバル ジェネラル
カウンセル

**パドマ・
ティルヴェンガダム**
チーフ HR オフィサー

古田 未来乃
コーポレートストラテ
ジーオフィサー &
チーフ オブ スタッフ

米国

アンディー・プランプ
リサーチ&デベロップメント
プレジデント

ラモナ・セケイラ
U.S. ビジネスユニット
プレジデント & グローバル
ポートフォリオ コマーシャライ
ゼーション プレジデント

テレサ・ヴィテッティ
グローバルオンコロジー
ビジネスユニット
プレジデント

ラジーヴ・ヴェンカヤ
グローバル ワクチン
ビジネスユニット
プレジデント

ジェラード・グレコ
グローバル クオリティ
オフィサー

マルチェロ・アゴスティ
グローバル
ビジネスデベロップメント
オフィサー

スイス

**ジャイルズ・
プラットフォード**
EUCAN ビジネスユニット
プレジデント

ジュリー・キム
プラズマ デライブド
セラピーズ ビジネスユニット
プレジデント

トーマス・ウォスニフスキー
グローバル
マニュファクチャリング&
サプライ オフィサー

ムワナ・ルゴゴ
チーフ エシックス&
コンプライアンス
オフィサー

シンガポール

リカルド・マレック
グロース&エマージング
マーケッツビジネスユニット
プレジデント

取締役体制

タケダはベスト・イン・クラスのガバナンスを有しています。16名の取締役は様々な分野におけるグローバルでの経験を持ち、
うち11名は社外取締役です。

社内取締役

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長
チーフ エグゼクティブ
オフィサー

岩﨑 真人
取締役、ジャパン ファーマ
ビジネス ユニットプレジデント

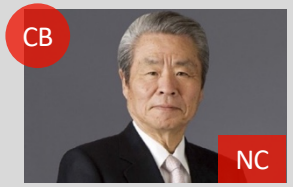
アンドリュー・プランプ
取締役、リサーチ&
デベロップメント プレジデント

コスタ・サルウコス
取締役、チーフ
フィナンシャル オフィサー

監査等委員会

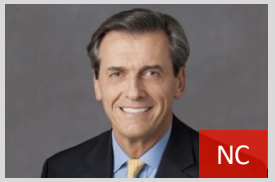
山中 康彦
取締役
監査等委員

独立社外取締役[1]



坂根 正弘
独立取締役
取締役会議長
指名委員会委員長

オリビエ・ボユオン
独立取締役



ジャン=リュック・ブテル
独立取締役

イアン・クラーク
独立取締役

藤森 義明
独立取締役

スティーブン・ギリス
独立取締役

国谷 史朗
独立取締役

志賀 俊之
独立取締役

初川 浩司
独立取締役
監査等委員長

東 恵美子
独立取締役
監査等委員
報酬委員会委員長

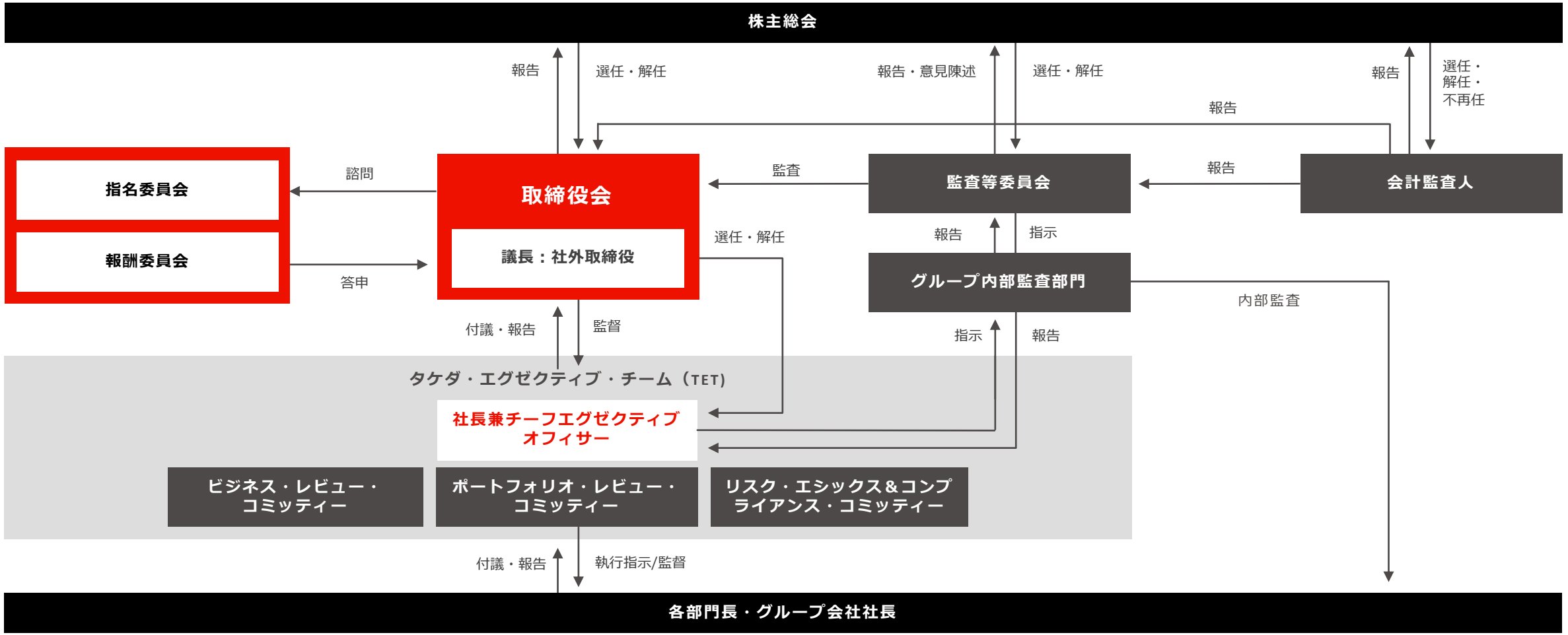
ミシェル・オーシンガー
独立取締役
監査等委員

CB 取締役会議長
独立社外取締役
NC 指名委員会[2]
CC 報酬委員会

1. 東京証券取引所の有価証券上場規定の定義によるもの
2. クリストフ・ウェバーがオブザーバーとして参加

コーポレート・ガバナンス体制の模式図

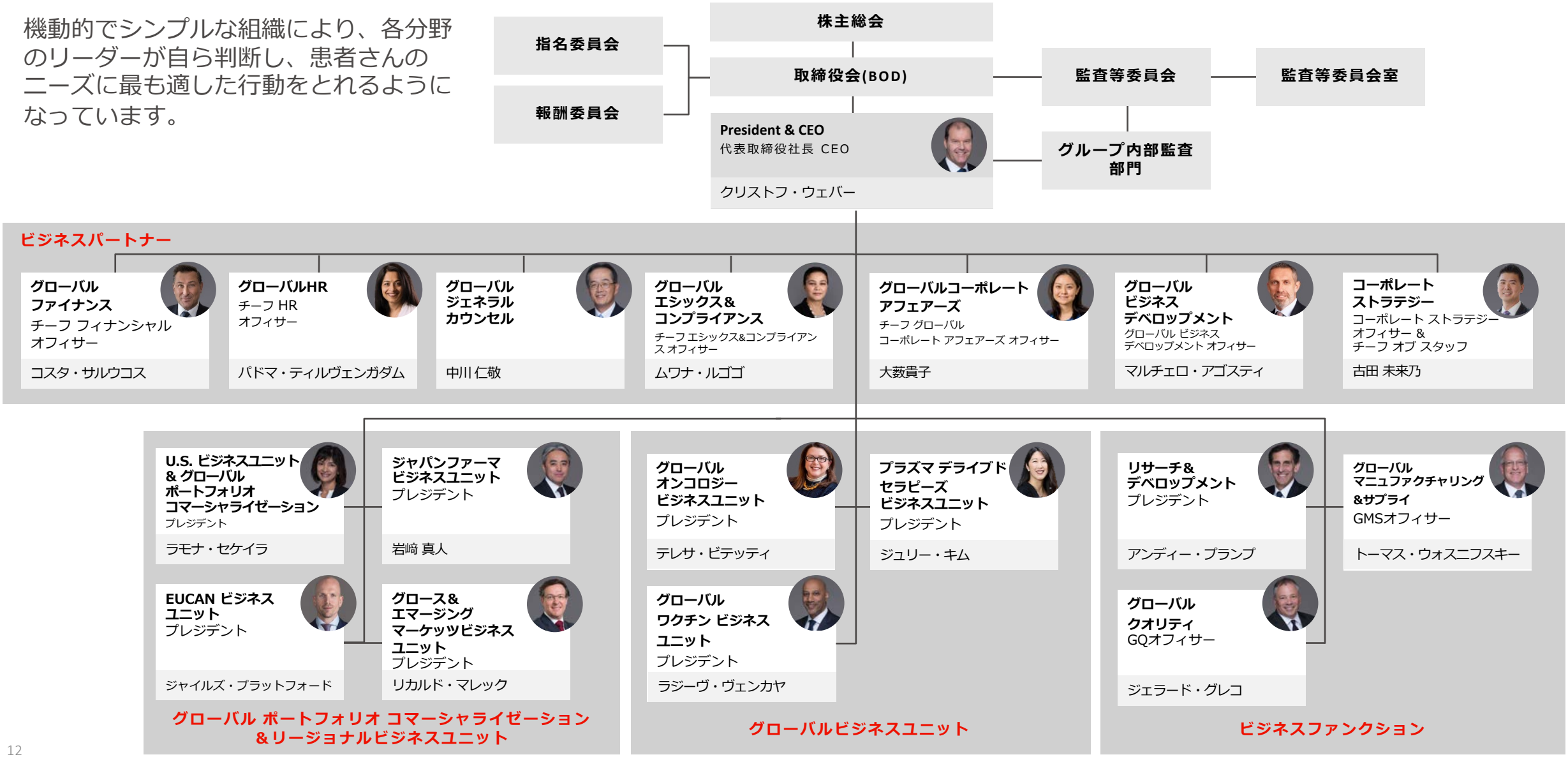
先進的かつ強固なコーポレートガバナンスモデルは、これまでも、これからも、タケダが成功する上で極めて重要です。



コーポレート・ガバナンスの詳細を見る (TAKEDA.COM)

グローバル組織体制

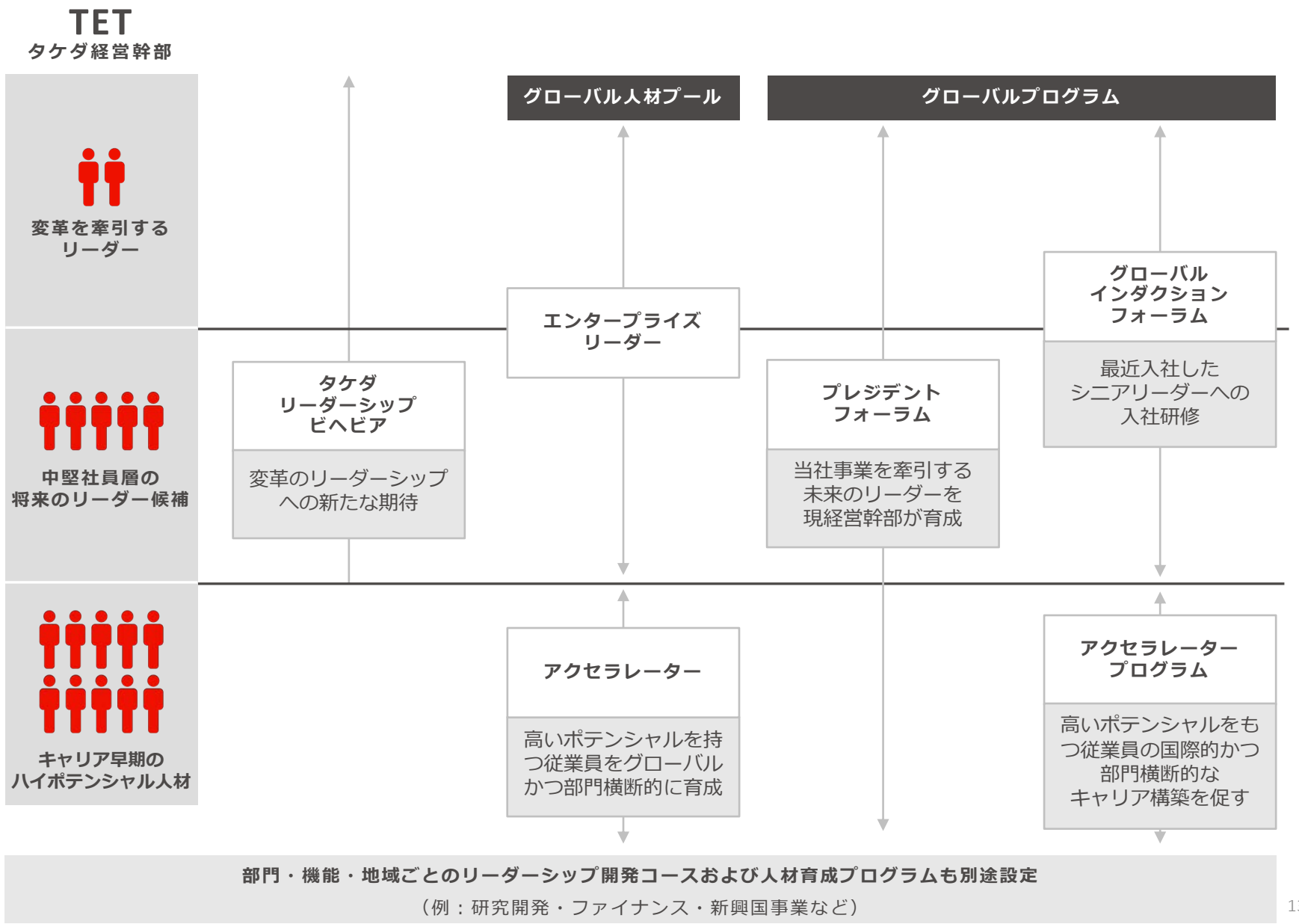
機動的でシンプルな組織により、各分野のリーダーが自ら判断し、患者さんのニーズに最も適した行動をとれるようになっています。



次世代リーダー育成への取り組み

従業員の活躍が、タケダの成功の礎です。

一人ひとりのスキルや知識をさらに高める人材育成プログラムや、
未来のタケダ、さらには製薬業界を牽引するグローバルリーダーの育成プログラムに、継続的かつ戦略的に取り組んでいます。



タケダのR&Dは、イノベーションの創出を使命として、研究所から世界中の患者さんに革新的な医薬品をお届けすることを目指し、創薬の研究開発に取り組んでいます。

03

INNOVATION
革新性

サイエンスから
人生を変えうる
高度に革新的な医薬品へ

研究開発の重点領域

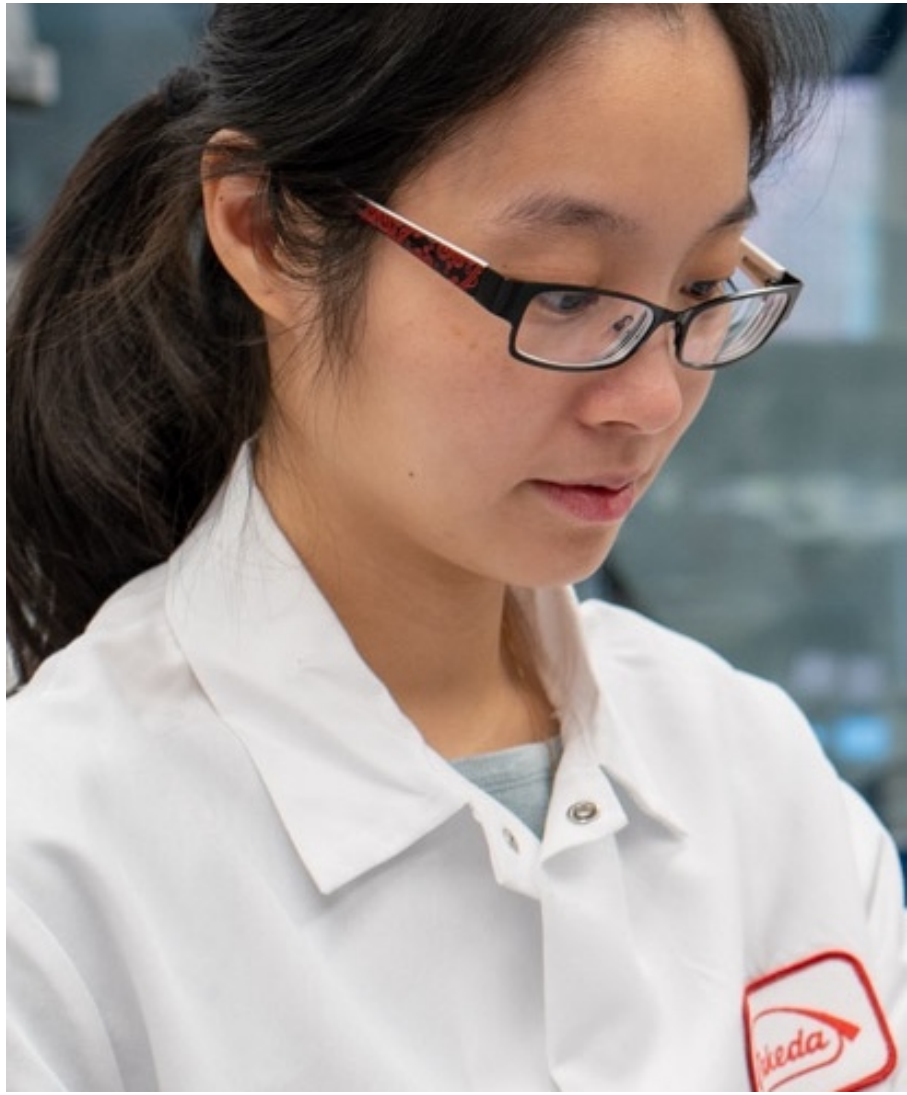
タケダの研究開発では、4つの疾患領域と2つの分野に注力し、常に患者さんを中心に考えるサイエンス・ファーストの取り組みを進めています。

革新的なバイオファーマ

- オンコロジー
- 希少疾患
- ニューロサイエンス
- 消化器系疾患

- 血漿分画製剤
- ワクチン

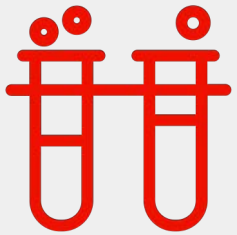
研究開発パイプラインの詳細を見る (TAKEDA.COM)



革新的なR&Dエンジンと先進的なパートナーシップモデル

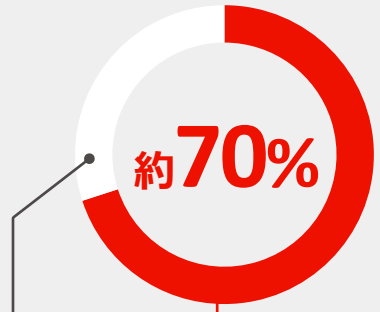
高度化する医療に対応する研究開発能力のさらなる向上と同時に、積極的なパートナーシップを通じて世界中の革新的な研究開発活動に参画しています。
患者さんのアンメットメディカルニーズが高い疾患に対象を絞り込み、高度に画期的で治癒をもたらしうる治療法の提供を目指します。

研究開発費



年間
約4,500億円

多様なモダリティ（創薬手法）



低分子化合物

- 生物学的製剤
- 細胞療法・遺伝子治療
- 腸内細菌・その他代謝物
- ペプチド・オリゴヌクレオチド

積極的なパートナーシップ

200以上

新規作用機序を含む堅固なパイプライン

約40
臨床試験段階にある新規候補薬物

オーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）指定を受けたパイプライン*

*2018年のオーファンドラッグ指定は15品目であったのに対し、2019年は31品目（Ph1~ライフサイクルマネジメント段階にある品目のうち、1適応症以上のオーファンドラッグ指定を受けたもの）

ビジネスポートフォリオ

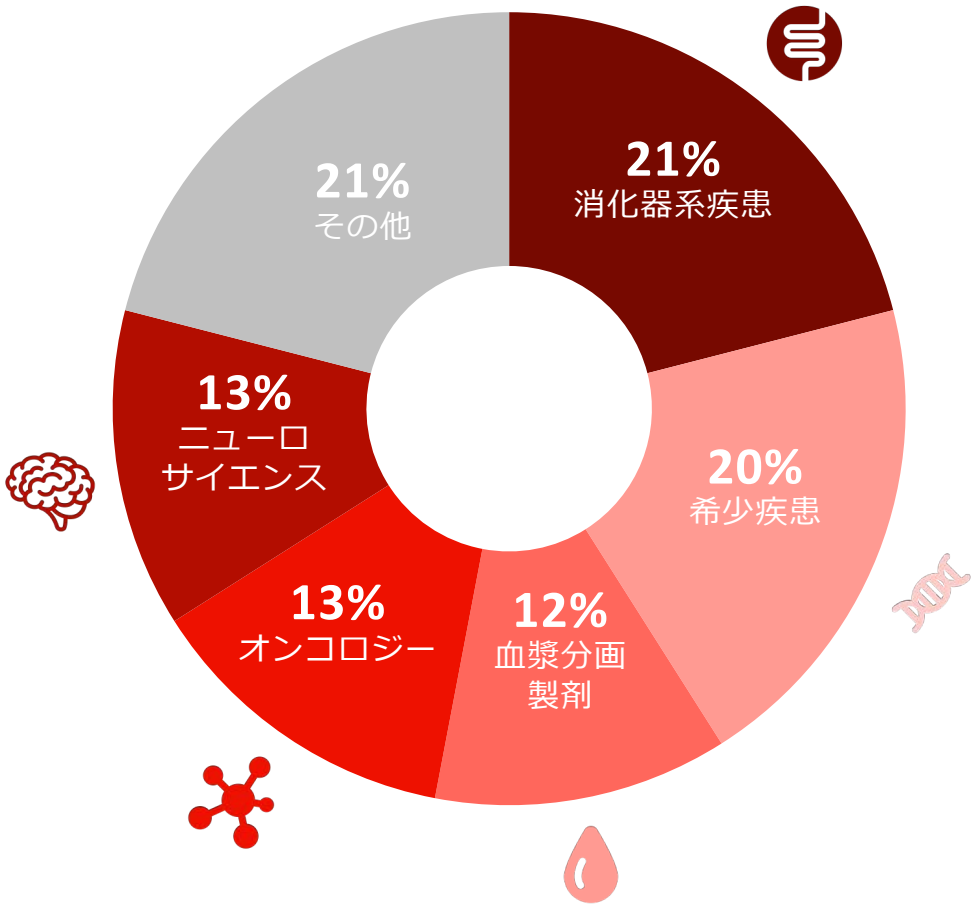
患者さんの生活を一変させうる革新的な医薬品が、
主要ビジネスエリアにバランスよく分散され、
タケダのさらなる成長を牽引しています。

5 主要ビジネス
エリア

14 グローバル
ブランド

約80% 売上収益に占める
主要ビジネスの割合

売上における比率*



*2019年4月～2020年3月の売上収益における比率

グローバルCSRプログラムとして支援する活動やパートナーは、全世界の従業員によって決定しています。
従業員がパートナーの支援先を実際に訪問する「Employee Participation Program (従業員参加プログラム)」を実施しています。

04

SUSTAINABILITY
サステナビリティ

FTSE4Good

MEMBER OF Dow Jones Sustainability Indices In collaboration with SAM

access to medicine FOUNDATION

2019 GLOBAL100

Jefferies Corporate Governance Scorecard

持続可能な
開発目標（SDGs）に沿った
長期的なコミットメント

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING

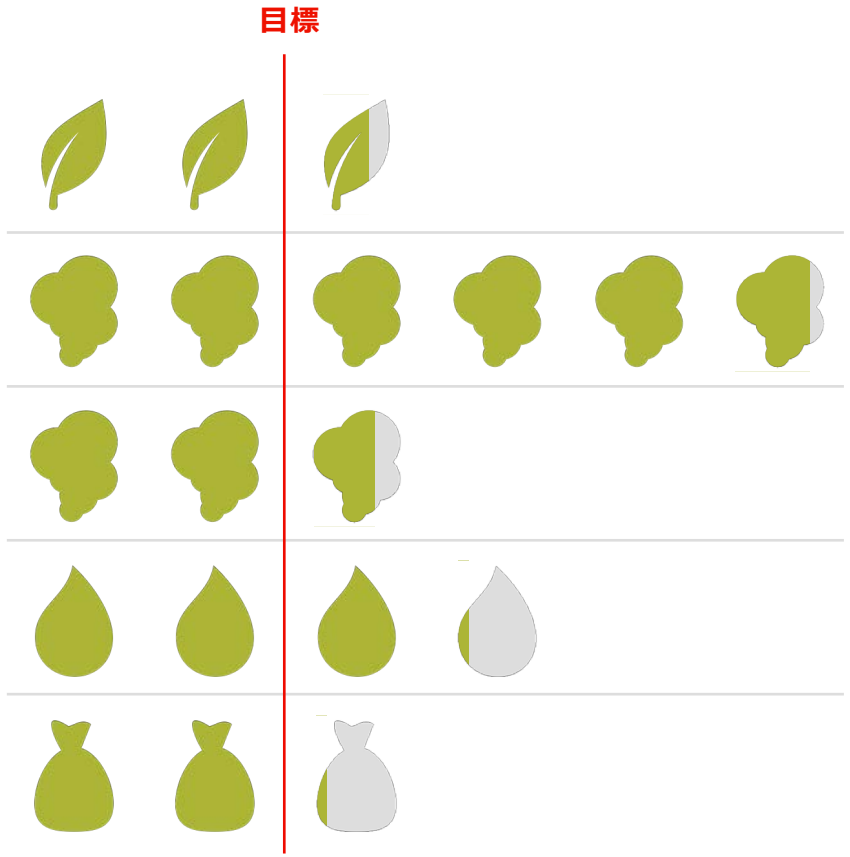
17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS

環境負荷削減目標

気候変動の影響を防止・軽減するための活動に意欲的に取り組んでいます。

さらに、当社のバリューチェーン全体で排出するすべての温室効果ガスを、2040年までに削減し、カーボンニュートラルを達成するという目標を掲げています。

	2020年度目標 (2005年度比削減目標)	2018年度末までの削減実績
CO_2 排出量	25%	33.7%
NO_X 排出量	20%	59%
SO_X 排出量	75%	99.1%
淡水使用量	30%	48%
廃棄物最終処分量（日本）	60%	68.3%



1. 現場でのさまざまな燃焼プロセスから生じる硫黄酸化物（SOX）および窒素酸化物（NOX）
2. 目標に対するパフォーマンスは、シャイアー買収分を除外

カーボンニュートラルへの取り組みの詳細を見る（TAKEDA.COM）

持続可能な未来に向けた戦略的な取り組み

グローバルCSRプログラム＆パートナーシップは、途上国と新興国において
疾病予防と保健医療システムの強化に長期的に取り組んでいます。

タケダ・グローバルCSRプログラム

14

**グローバルCSR
プログラム**

**毎年、従業員による投票で
プログラムを決定**

105億円

**2016年度から2019年度
までの合計寄付金額**

グローバルCSRパートナー
多国籍でアカデミックな団体と協働

ASIAN UNIVERSITY FOR WOMEN

RELAY FOR LIFE GLOBAL

The Global Fund

LONDON SCHOOL of HYGIENE &TROPICAL MEDICINE

BSR

グローバルCSRプログラムの詳細を見る (TAKEDA.COM)

©City Cancer Challenge

©DNDi/Fabio Nascimento

©UNICEF/UN0265456/Chute

世界中の患者さんの医薬品へのアクセス向上のために

2016年に開始した新しい医薬品アクセス戦略は、アンメットニーズが高い地域および複雑な疾患や希少疾病を中心に、患者さんが必要とする治療へのアクセスを妨げる多くの障壁を取り除くことをめざしています。
患者さんがたどるすべての過程（疾患の認知、診断、治療、その後のサポート）において持続可能性が高く対象を絞ったアプローチをすることで、保健医療システムの強化と変革を実現します。

125,000人以上
必要な治療を受けるための援助をした患者さんの数

110万人以上
支援を受けた医療従事者が、がん、高血圧、糖尿病のスクリーニングを実施した患者さんの数

4,000人以上
より良い患者ケアに関する研修を受けた医療従事者とコミュニティ・ヘルスワーカーの数

52
患者さんを中心としたアクセスプログラムを実施した国と地域の数

5位
2018年度の医薬品アクセスランキングにおいて前回より順位を10位上昇させ、5位にランクイン。タケダの戦略と活動の進展が評価された。

Access to Medicines Two-year Progress Report（英語のみ）の詳細を見る (TAKEDA.COM)

製品情報に関する注意事項

本会社案内には、武田薬品の製品についての情報が含まれていますがそれらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって 異なる商標、効能、用量などで販売されている場合もあります。また、本会社案内に記載されている医薬品(開発品を含む)の情報は、そのような製品を 宣伝・広告するものではありません。会社案内に記載されている製品に関する情報は、医学的アドバイスの提供を目的とするものではなく、決して、医師その他医療従事者によるアドバイスの代わりになるものではありません。

「バンビタン / Panvitan」「アリナミン/ ALINAMIN」は、武田薬品工業株式会社またはその子会社の日本およびその他の国における商標 または商標登録です。

詳細はウェブサイトをご覧ください

www.takeda.com/jp

発行月: 2020年8月
発行元：グローバル コーポレート アフェアーズ

武田グローバル本社の空間デザインについて

クリエイティブディレクター佐藤可士和氏による空間デザインコンセプトは、人間の「life force：生きる力」。このコンセプトは、8つの漢字を用いたアートワークにあらわされ、ビルのいたるところに配置されています。